

硬化コンクリート中に含まれる 塩化物イオンの試験方法

正 誤 票

区分	位 置	誤	正
本体	7.1 注 ⁽⁴⁾	…炭酸ナトリウムを…	…炭酸カルシウムを…
	10.5	$C = \frac{S \times 10^{-3}}{W} \times \frac{200}{X} \times 100$	$C = \frac{S \times 10^{-3}}{W} \times \frac{200}{1000} \times \frac{50}{X} \times K \times 100$
		(K の用語説明なし。)	K : 希釈倍率 (1 又は 10)
	12.6	$C = \frac{S \times 10^{-3}}{W} \times \frac{200}{X} \times 100$	$C = \frac{S \times 10^{-3}}{W} \times \frac{200}{1000} \times 100$
X : 分取量 (ml)		削除	

平成 16 年 12 月 1 日作成

解説

訂 正 票

位 置	正
3. の次へ	<p>(以下を追加。)</p> <p>4. 補足参考事項 試験操作を行う際、次の事項を参考にするとよい。</p> <p>a) 滴定に使用する硝酸銀溶液の濃度 塩化物イオン電極を用いた電位差滴定法 [9.4 操作 b)] 及び硝酸銀滴定法 [11.4 操作 c)] では、0.1 mol/l の硝酸銀溶液を使用して滴定することを規定している。しかし、試料溶液の塩化物イオン濃度が薄い場合、当該濃度の硝酸銀溶液を使用すると、滴定に要する硝酸銀溶液の量が極微量となり、塩化物イオン量を精度良く測定することができない場合がある。この場合は、試料溶液の塩化物イオン濃度を考慮して硝酸銀溶液を希釈して使用してもよい。ただし、その場合は、塩化物イオン濃度の計算時に希釈倍率を考慮する必要がある。</p> <p>b) 硝酸銀滴定法 [本体 11.4 操作 c)] で、試料溶液に指示薬を加えて 0.1 mol/l の硝酸銀溶液で滴定し、黄緑の蛍光が消失してわずかに赤くなったときを終点とする旨を規定している。しかし、試料溶液によっては、終点の識別が困難な場合がある。この場合は、試料溶液に炭酸ナトリウムを極少量加えると、終点が判定しやすくなる。</p> <p>c) イオンクロマトグラフ法 [本体 12.5 d)] で、試料を薄める場合について規定している。12.6 の計算では、希釈倍率を考慮する旨は特に記述していないが、試料を</p>

位 置	正															
4.	<p>薄める場合は、希釈倍率を考慮して塩化物イオン濃度を算出する必要がある。</p> <p>解説表 1 に、前述 a)から c)で述べた事項に関する本体の項番、記述及び補足内容を一覧として示す。</p> <p style="text-align: center;">解説表 1 補足参考事項</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">本体項番</th> <th style="text-align: center;">本体の記述</th> <th style="text-align: center;">補足事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">9.4 操作 b)</td> <td>…, 0.1 mol/l 硝酸銀溶液で電位差滴定する。</td> <td rowspan="2">試料溶液の塩化物イオン濃度が薄い場合は、滴定溶液を希釈して使用してもよい。ただし、その場合は、塩化物イオン濃度の計算時に希釈倍率を考慮する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">11.4 操作 c)</td> <td>…, 0.1 mol/l 硝酸銀溶液で滴定する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">9.2 試薬 標定 11.2 試薬 標定 11.4 操作 c)</td> <td>黄緑の蛍光が消失してわずかに赤くなったときを終点とする。</td> <td>炭酸ナトリウム粉末を極少量加えると、終点が判定しやすい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">12.5 操作 d)</td> <td>d) 試料を薄めた場合には、…</td> <td>試料を薄めた場合は、12.6 の計算時に希釈倍率を考慮する。</td> </tr> </tbody> </table>		本体項番	本体の記述	補足事項	9.4 操作 b)	…, 0.1 mol/l 硝酸銀溶液で電位差滴定する。	試料溶液の塩化物イオン濃度が薄い場合は、滴定溶液を希釈して使用してもよい。ただし、その場合は、塩化物イオン濃度の計算時に希釈倍率を考慮する。	11.4 操作 c)	…, 0.1 mol/l 硝酸銀溶液で滴定する。	9.2 試薬 標定 11.2 試薬 標定 11.4 操作 c)	黄緑の蛍光が消失してわずかに赤くなったときを終点とする。	炭酸ナトリウム粉末を極少量加えると、終点が判定しやすい。	12.5 操作 d)	d) 試料を薄めた場合には、…	試料を薄めた場合は、12.6 の計算時に希釈倍率を考慮する。
	本体項番	本体の記述	補足事項													
	9.4 操作 b)	…, 0.1 mol/l 硝酸銀溶液で電位差滴定する。	試料溶液の塩化物イオン濃度が薄い場合は、滴定溶液を希釈して使用してもよい。ただし、その場合は、塩化物イオン濃度の計算時に希釈倍率を考慮する。													
	11.4 操作 c)	…, 0.1 mol/l 硝酸銀溶液で滴定する。														
	9.2 試薬 標定 11.2 試薬 標定 11.4 操作 c)	黄緑の蛍光が消失してわずかに赤くなったときを終点とする。	炭酸ナトリウム粉末を極少量加えると、終点が判定しやすい。													
12.5 操作 d)	d) 試料を薄めた場合には、…	試料を薄めた場合は、12.6 の計算時に希釈倍率を考慮する。														
誤		正														
4. 原案作成委員会の構成表	5. 原案作成委員会の構成表															

訂正票とは、規格本体以外（解説ほか）に対する正誤を表します。

平成 16 年 12 月 1 日作成